

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 本年度の学校経営の方針

つなげる子 認め合う子 の育成を図る

≪ 学校教育目標 ≫

・考える子ども ・力を合わせる子ども
 ・正しい子ども ・強い子ども ・豊かな心の子ども

≪ 目指す子どもの姿 ≫

つなげる子 認め合う子

2 自己評価の評価項目

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	次年度への改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1.「つなげる子 認め合う子」を目指す子ども像に設定することで、子どもの成長が図られたか？	B	「つなげる子 認め合う子」にむけて各学年各部で1年を通して子どもの成長を図っていくことができた。教職員が一つの方向に向かえる子ども像が設定され、「よくわかる南郷小」などで保護者にも周知できたことで、指導が安定し、子どもたちは比較的落ち着いた学校生活の中で自己肯定感を高めることができた。次年度は今年度の取り組みの拡充及び学力の向上につなげていく。	A	A
2.子どもたちがつなげることができるように、かかわりを重視した教育活動が行われていたか？	A	自主活動の取り組みや行事の中で意識して子どもたちの「つながり」「関わり」を育てることができた。授業の中でも「きく」ということを中心に各学年で「つなげる子 認め合う子」にむけて関わらせることの価値づけができていた。	A	A
3.子どもたちの相互理解を図れるような活動が行われていたか？	B	各学年各部で「つなげる子 認め合う子」を意識した活動づくりができていた。これからも続けて子どもの成長を図るため子どもたちが関わり合うサイクルを次年度年間計画に位置付けていく。	A	A
4.校務運営組織の再編が「つなげる子 認め合う子」の育成につながっていたか？	B	校務組織改編初年度として各部が目標をもち、目指す子ども像に向けた活動を作り上げ、子どもたちの自己肯定感を高めることができた。今年度の取り組みの流れを基に運営組織を継続させるために各部での職員会議での提案資料や反省を次年度に引き継いでいきたい。	A	A
5.学年担任制の推進がなされ、「つなげる子 認め合う子」の育成につながっていたか？	B	学年ごとの行事や授業の取り組みを通して学年の絆が高まり、それが自己肯定感にもつながっていると考える。合同での授業や学年行事の取り組みに加え次年度も密に学年で打ち合わせや情報交流・共通理解を深めることで子ども一人一人の理解を深め「つなげる子 認め合う子」の育成をする。	A	A
6.小中一貫した教育の推進がなされていたか？	C	前期は札教研で白石中学校や南白石小学校の職員に子どもの学習の様子を見ていただいたり、校務について情報交換をすることができたが、後期は6年生のみの交流となった。次年度はグラウンドデザインを基に小中一貫教育に向けて情報交換をし、取り組みを強化したい。	B	B
7.火曜日、金曜日を短縮日課としたことで会議の時間や教職員のスキルアップの機会の確保につながったか？	B	参集の研修会などを例年より多く持た。放課後の時間を多くすることで、校務や授業準備などの時間がうまれ、個人のスキルと同僚性の両方が高まっていると感じている。次年度もなるべく会議や職員のスキルアップのための研修など、子どもたちの育ちを共通理解が図られるような機会を増やしていく。	A	A
8.様々な問題に組織的対応する仕組み作り(いじめ対応、困り感を抱える児童の対応)がなされていたか？	A	様々な問題に組織的に対応することができた。早期リアクティブ対応や、プロアクティブ的な働きかけを学年や担任そして子どもたちにしていくことができた。児童支援部・いじめ対策委員会・校内学びの支援委員会などの組織づくり、全校児童の様子の共通理解、早期対応、未然予防のための情報共有の場づくりなどは次年度に引き継ぎたい。	A	A
学校関係評価者による意見	○学校長の学校経営方針を軸に、職員が目標に向かって子どもたちのために取り組んでいた。豊かな心を育むには認め合いが大切。 ○様々な場面で多くの子どもが輝く場面をもつとよい。運動会ではリレーなどその子が得意な場面で自己肯定感が高まるような競技を復活させてはどうか。 ○学校内、家庭内共に、言葉で気持ちを伝え合うことも相互理解が深まることと考える。子どもたちと話し合う時間がより多くなる余裕のある環境になるとよい。 ○小中一貫教育で学習面はもちろんのこと、「命の大切さ」を学ぶ時間を増やしいじめ根絶を南郷小から発信して頂きたい。中1と6年生以外の交流も広がるとよい。運動会などでも高学年が下学年に教えるなど全校的な関わりがあるとよい。 ○ネットいじめについて道徳の授業でLINEトラブルなどを学んでいた。それをこれからも、道徳の時間などで力を入れていく必要がある。ネットトラブルに対する保護者の意識を高めることも必要。			

※達成状況は、「達成」→「A」、「ほぼ達成」→「B」、「要改善」→「C」、「早急に改善」→「D」の4段階で表しています。